

掘りday はちのへ

—八戸市埋蔵文化財ニュース第23号—



の字状石製品

出土したようす

県内3例目！「の字状石製品」出土～まつがさきいせき松ヶ崎遺跡～

松ヶ崎遺跡は、にいだ新井田川とその支流のまつだて松館川に挟まれた、標高27～45mの台地上に立地する、市内最大規模の縄文時代前～中期の集落跡です。

今回の調査では、古代の竪穴建物跡(SI55)か



SI55 竪穴建物跡 一辺約8mの焼失住居。
この住居跡から「の字状石製品」がみつかりました。

ら縄文時代のものとみられる「じじょうせきせいひんの字状石製品」がみつかりました。「の字状石製品」とは、ひらがなの「の」に似た形の、首飾状の装飾品です。関東・長野・北陸を中心にみつかっており、青森県内でみつかったのはこれで3例目です。

本遺跡の「の字状石製品」の加工痕を観察すると、直線的な切込みを入れた痕跡がはっきりと見えます。他の地域でみつかった「の字状石製品」にはこのような切り込みがあるものはみつかっておらず、意図的に再加工を行ったと考えられます。

この他にも、今回の調査では、縄文時代の竪穴建物跡や時期不明の土坑墓どこうぼがみつかるなど、遺跡全体での集落の様相が徐々に明らかになってきました。

(宇庭 瑞穂)



縄文時代の貝塚と集落を発見～一王寺遺跡～^{いちおうじ}

一王寺遺跡は、史跡「是川石器時代遺跡」^{これかわせつ き じ だ い せ き}を構成する3遺跡のひとつで、縄文時代前～中期を中心とする大規模な集落跡です。本遺跡では、平成7年度から断続的に内容確認調査が行われてきましたが、調査総面積は遺跡全体の約2%にとどまっております。遺跡の全容を把握するには至っていません。そこで令和元年度から6年計画で、昭和32年の史跡指定範囲を中心に、遺跡の内容を詳しく確認するための調査を実施しています。

今回の発掘調査では、以下のことがわかりました。



旧調査坑壁面でみつけた貝塚

①縄文時代前期の貝塚の広がりを確認^{かいづか}

調査区の北側にて、泉山岩次郎・斐次郎氏^{いづみやま いわじろう あやじろう}が一王寺遺跡を調査した際の旧調査坑を確認しました。この穴からは多量の縄文土器や石器、獣骨や貝殻などが出土したほか、壁面に貝塚を確認しました。位置関係から、平成26・28年度の調査で見つかった貝塚と一連のものと考えられます。

貝塚の周辺には、縄文時代前期の土器の捨て場が形成されていることもわかりました。捨て場の中には、竪穴建物廃絶後の凹地^{くぼち}に形成されたものもありました。

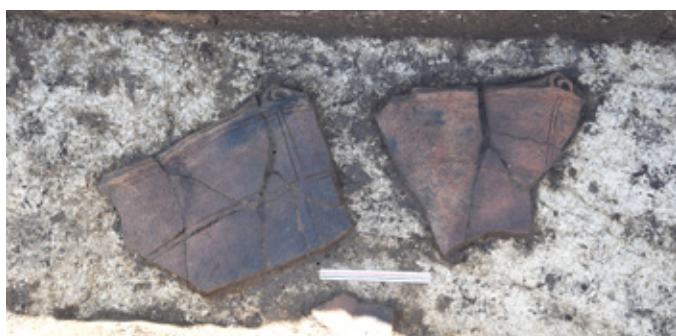
②縄文時代中期の集落跡を確認

調査範囲の東側で、中期後葉の竪穴建物跡を多数確認し、この時期に集落の規模が最も大きくなったと考えられます。

この他、調査区の西側では縄文時代後期の配石遺構^{はいせき いこう}や集石遺構^{しゅうせき いこう}がみつかりました。この時期になると儀礼に関わるような遺構が増えてきて、「生活の場」から「祈りの場」へ、土地の利用の仕方に変化があらわれてくることなども調査によって確認することができました。(宇庭 瑞穂)



縄文時代中期の竪穴建物跡(点線部分)



竪穴建物跡(上写真 赤丸箇所)からみつかった縄文時代中期の土器(左)と、これを復元したもの(右)



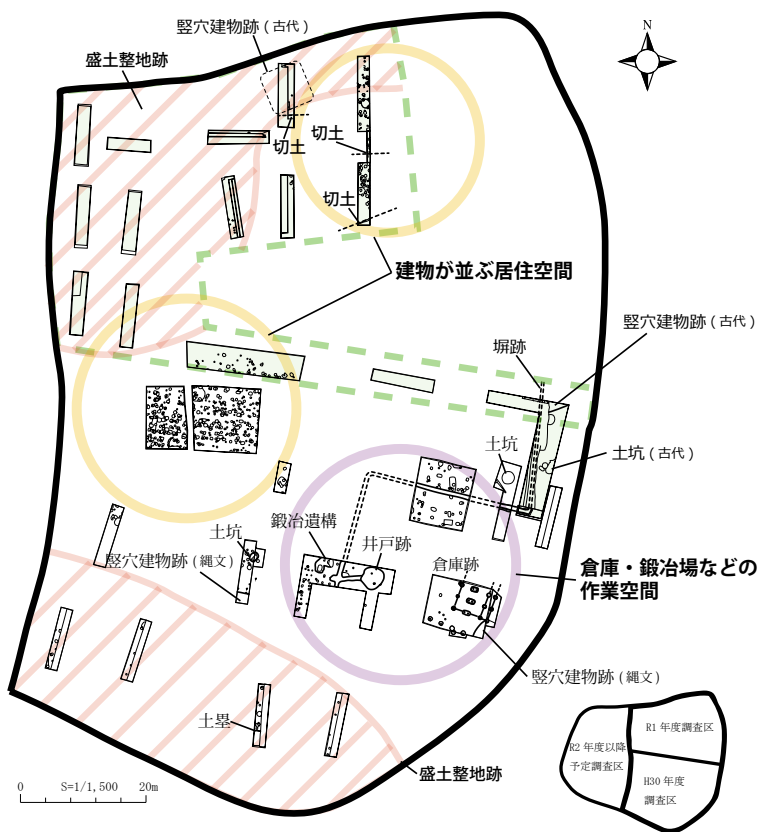
新田氏のお城の調査～新田城跡（館平遺跡）～

新田城跡は、八戸市中心市街地から南東約 3.5km の、標高約 37m の丘陵上に立地しています。城の中心部と考えられる本丸（主曲輪）は、東西約 200m、南北約 150m の広さです。城主は、根城南部（八戸）氏の重臣である新田氏とされています。新田氏は、14 世紀（室町時代）ごろから 1627（寛永 4）年（江戸時代）に根城南部氏とともに遠野へ移るまで、新田城跡のある一帯を拠点としていたとされています。

八戸市では、新田城跡のうち、公園の整備が予定されている本丸部分の内容を確認するため、平成 30 年度から 3 か年の計画で調査しています。令和元年度は、北東部約 5,000 m²を対象に調査を行いました。

今回の調査では、盛土や切土による造成工事を行った痕跡がみつかりました。盛土からみつかった陶磁器は、16 世紀後半に作られたものももっとも新しく、この時期以降に造成工事が行われたと考えられます。このほか、柱の穴や塀の跡などの遺構を確認しました。昨年度の調査成果とあわせて本丸での遺構の分布をみると、南東部では鍛冶場や倉庫といった作業に関わる建物跡、中央部や北東部では掘立柱建物といった居住などに関係する建物跡がみつかりました。こうした遺構の分布から、本丸の平場における空間利用の様子が少しずつ明らかになってきました。

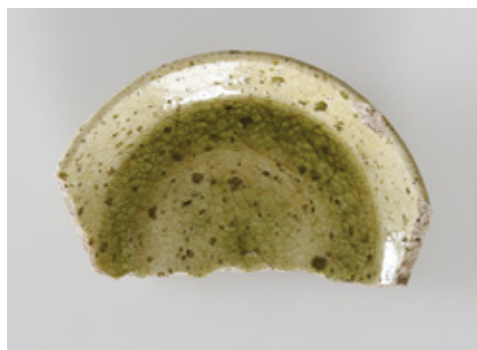
遺物は、主に陶磁器や鉄製品、銭貨などが出土し、このうち、新田氏が活動していたころのものと考えられる陶磁器は、14 世紀（室町時代）から 17 世紀前半（江戸時代）のものを確認することができました。（上ノ山 拓己）



新田城跡の遺構配置 目的ごとに土地の使い分けがされています



新田城跡本丸全景（北から）



陶磁器
16 世紀後半ごろ愛知県周辺で作られた皿の破片で、盛土の中からみつかりました

北の縄文の優品が集結！特別展「北の縄文世界」開催！

開催期間：令和元年7月20日(土)～9月8日(日)

世界遺産への登録を目指す「北海道・北東北の縄文遺跡群」を中心に、北日本の縄文人のくらしや文化を紹介する展示を開催しました。重要文化財26点を含む174点の優品を一堂に集めました。

縄文遺跡群を知る上で欠かせない「定住」や「自然との共生」、「^{さいし}祭祀・儀礼」、「交流」をキーワードに、①世界のなかの縄文・②北の縄文ムラと社会・③火山噴火と縄文人・④縄文時代の記念物・⑤縄文時代が終わるころの文化とムラ・⑥世界遺産登録に向けての6つの内容で構成し、北の縄文文化の世界的な価値や構成資産の17の遺跡、世界遺産登録についてわかりやすく紹介しました。

会期中には、縄文遺跡群がユネスコ（国際連合教育科学文化機関）への次期国内推薦候補に選定され、展示室は縄文遺跡群に関心をもった市内外からの観覧者で連日にぎわい、世界遺産登録へ向けての大きなPRとなりました。（市川 健夫）



会場ようす



注口土器（重要文化財・是川中居遺跡）



土偶（秋田県指定文化財・伊勢堂岱遺跡）

縄文から続く木の文化 秋季企画展「山のいとなみ」

開催期間：令和元年10月5日(土)～11月24日(日)

「縄文時代から現代まで続く人と森とのかかわりについて考える」をテーマに、木で作られた道具をはじめ、^き伐る道具や加工する道具、^{うるし}漆利用のための^{ようぐ}要具など、重要文化財37点、県重宝10点を含む158点を展示しました。

展示では、縄文時代の^{せきふ}石斧、古代以降に使われた^{てつぶ}鉄斧や^{のこぎり}鋸、現代の^{ぼっさいぐ}伐採具やチェーンソーなど、伐採道具の変遷をたどるとともに、縄文時代から変わらない木の利用について紹介しました。また、是川中居遺跡で見つかった^{みずばいこう}水場遺構や漆製品、植物性遺物などから、是川の縄文人のくらしや技術の高さを再認識するきっかけとなりました。また、日本博参画プロジェクトへの登録も行い、^{にほんはくさんかく}地域文化を学ぶ展示として、青森県の林業についての紹介も行いました。（山田 貴博）



会場ようす



大型木柱（是川中居遺跡出土）



是川石器時代遺跡の整備に向けて - 建物の撤去と調査①

八戸市では、是川石器時代遺跡の調査研究の成果をもとに、将来にわたって生涯学習や観光などの拠点、憩いの場として活用していく「是川縄文の里」の整備を進めています。

令和元年度から、史跡内にある建物の撤去工事と発掘調査を開始しました。遺跡には、昭和初期建築の倉庫や、是川遺跡出土品をかつて収蔵公開していた是川考古館などの建物があり、縄文時代の風景へ戻すために撤去する必要があります。また、元の地形などを復元整備していく上で、建物下の遺跡の状態や、地表面から遺跡までの位置（深さ）などを知ることが重要です。今年度は、昭和8年築の倉庫と昭和49年築の平屋の建物の2棟を対象に、撤去と調査を行いました。

調査の結果、土坑墓や土坑が一部残っていることがわかったほか、地表面から遺跡までの盛土などの厚さを知ることができ、整備を進める上で有益な情報を得ることができました。

(市川 健夫)



撤去前の平屋建物のようす



建物を撤去してその下の遺跡を確認



調査と撤去工事が終了

世界遺産登録へあと少し！ 是川石器時代遺跡

八戸市は、北海道・青森県・岩手県・秋田県の4道県14市町による共同推進体制の一員として、是川石器時代遺跡を含む「北海道・北東北の縄文遺跡群」の世界遺産登録に取り組んでいます。

これまでの準備が実を結び、縄文遺跡群は令和元年7月にユネスコ（国際連合教育科学文化機関）への次期国内推薦候補に選定され、12月には政府の閣議了解によって推薦が決定、そして令和2年1月には国からパリのユネスコ世界遺産センターへ世界



イベントでの世界遺産登録PR（八食わくわくフェスタにて）

遺産登録に向けた推薦書が提出されました。今後、ユネスコの諮問機関であるイコモス（国際記念物遺跡会議）からの現地調査が予定されています。

これまで八戸市では、縄文遺跡群に関する特別展やパネル展、講演会の開催をはじめ、フェスタイベントなどでの周知活動、広報誌での記事連載など、世界遺産登録へ向けてのPR活動に努めてきました。

世界遺産登録まであと少し！ ぜひ応援をお願いします！

(市川 健夫)



令和元年度遺跡調査報告会を開催しました

令和元年11月9日（土）に、八戸市内での遺跡発掘調査の主な成果を発信する遺跡調査報告会を開催し、市内外から約70名の参加がありました。

遺跡報告会では、縄文時代の一王寺遺跡（是川地区）、縄文時代・古代の松ヶ崎遺跡（十日市地区）、中世・近世の新田城跡（新井田地区）の、3遺跡における発掘調査成果の報告を行いました。また、特別報告として、木村高氏（青森県埋蔵文化財調査センター）に猪ノ鼻(1)遺跡（七戸町猪ノ鼻地区）における、県内でも数少ない続縄文時代の発掘調査成果をお話いただきました。

遺物展示会場では、一王寺遺跡・松ヶ崎遺跡の縄文時代の土器や石器、新田城跡の陶磁器、猪ノ鼻(1)遺跡の続縄文土器・玉類などを展示しました。

過去の報告会資料は是川縄文館のホームページに掲載しています。是非ご覧ください。（苧坪 祐樹）



木村 高氏（青森県埋蔵文化財調査センター）



遺物展示会場の様子

これかわの一品③ 「飾り太刀」

飾り太刀は、鞘に収まった刀のような形から名づけられた、縄文時代晩期の漆塗り木製品です。全体が一本の木から削りだして作られ、刀身はないので、飾りの道具と考えられたようです。実は飾り太刀と呼ばれる前は、「麁尾様木製品」と呼ばれていました。麁尾とは、大きなシカのしっぽのことで、その動きに他が従うということから、お坊さんが儀式の際に威厳を整えるために使っている道具です。

ところで、北アメリカの北西海岸先住民は、サケをたくさんとるなど、縄文人と似たくら

しをしていました。トーテムポールで有名な彼らのリーダーは、儀式用の杖を使っていました。儀式や集会でその杖を持つ人だけが発言を許されたことから、トーキングスティックと呼ばれます。形は異なりますが、飾り太刀もこうした杖だったのかもしれませんが。飾り太刀は、日本全国の縄文遺跡の中で今のところ是川中居遺跡でしかみつかっていない、まだまだ謎の多い道具です。今年の夏季企画展にて公開予定です。

（小久保 拓也）



重要文化財「飾り太刀」長さ67cm 両側に小さな穴が連なっています。羽などの飾りをつけていたかもしれません。

令和元年度是川遺跡出土品保存修理事業

「青森県是川遺跡出土品」は平成23年度に330点が重要文化財に追加指定されました。この中には漆製品や木製品のように劣化しやすいものや、修理や補強が必要なものがあり、継続的に修理・補強を行っていく必要があります。令和元年度は土器7点と木製品12点、計19点の保存修理を行いました。

修理では、まず欠損部の細部の観察やX線透過によって、外から見えないヒビなどがないかを確認し、クリーニングを行った後に、それぞれの状態に応じた修理が行われます。土器は、一度破片ごとに分解した後、歪みがないように接合し直し、欠けている部分がある場合は樹脂などで補います。最後に、樹脂で補った部分に、本来の部分と区別がつくように色を塗って完成です。

保存修理を行うことによって本来の美しい姿をよみがえらせるとともに、安定した状態を保ちながら展示等で公開・活用することができます。大切な文化財を未来に伝えていくために、今後とも少しずつ保存修理を進めていきます。(上ノ山 拓己)



土器の保存修理 1…修理前 2…X線透過で内部の状態を確認 3…欠損部を樹脂で充填 4…修理完成

一年間を振り返って

夏は現場で作業員さんと共に汗水を流し、冬は土器などと格闘していたら、早一年が経ちました。学生の頃にはこのような仕事に就いているとは全く思いも寄らなかった。

私にとって、この一年は学ぶことばかりで、何事も新鮮なことばかりでした。八戸の歴史に関わる者として、その面白さを存分に伝えられるよう、頑張ります。(宇庭 瑞穂)

是川縄文館に配属となり1年が過ぎました。あっという間でした。上司・先輩方から熱いご指導をいただき、また、八戸の素晴らしい文化財に触れながら仕事をすることができ、楽しい日々を送っています。

4月からグループ異動で新しい仕事となりましたが、勇往邁進、日々精進！ これからも励んでいきたいと思います。(山田 貴博)



松ヶ崎遺跡発掘調査現場にて (筆者中央)



展示解説をする筆者 (右)

平成31・令和元年度 八戸市内発掘調査一覧

遺跡名	調査	調査原因	調査期間	調査面積 (㎡)	種別/主な時代
市子林遺跡①	試掘調査	個人住宅建築	H31.4.9	5	集落跡/縄文・古墳・奈良・平安・中世・近世
田面木遺跡①	試掘調査	個人住宅建築	H31.4.10	6	集落跡/縄文・奈良・平安
柳引遺跡第10地点	試掘調査	太陽光発電設備設置	H31.4.18	60	集落跡・城跡/古代
柳引遺跡第11地点	試掘調査	太陽光発電設備設置	H31.4.18	38	集落跡・城跡/古代
重地遺跡	試掘調査	個人住宅建築	H31.4.23	19.2	集落跡/縄文
丹内遺跡第2地点	試掘調査	太陽光発電設備設置	H31.4.24～R1.5.8	100	集落跡/縄文
松ヶ崎遺跡①	試掘調査	個人住宅建築	R1.5.8・9	20	集落跡・貝塚/縄文・奈良・平安
田面木遺跡第51～54地点	試掘調査	建売住宅建築	R1.5.20～22	27.5	集落跡/奈良・平安・近世
松ヶ崎遺跡②	試掘調査	個人住宅建築	R1.6.4	8	集落跡・貝塚/縄文・奈良・平安
小館遺跡	試掘調査	太陽光発電設備設置	R1.7.1～3	23	城跡/中世
塩入遺跡	試掘調査	個人住宅建築	R1.7.2	20	散布地/縄文・平安
舟渡ノ上遺跡	試掘調査	太陽光発電設備設置	R1.7.5～8	9	散布地/縄文・平安
丹後谷地(3)遺跡	試掘調査	太陽光発電設備設置	R1.7.9	30	散布地/縄文・平安
蟹沢(3)遺跡	試掘調査	太陽光発電設備設置	R1.7.10	7	散布地/縄文
石橋遺跡①	試掘調査	個人住宅建築	R1.7.12	8	集落跡/平安
石橋遺跡②	試掘調査	個人住宅建築	R1.8.8	4	集落跡/平安
田面木赤坂(2)遺跡	試掘調査	太陽光発電設備設置	R1.9.12～20	24	散布地/縄文
石橋遺跡③	試掘調査	建売住宅建築	R1.9.20	23.5	集落跡/平安
田面木遺跡②	試掘調査	個人住宅建築	R1.10.3	5	集落跡/縄文・弥生・奈良・平安
八戸北インター第2工業団地建設予定地	試掘調査	範囲確認調査	R1.10.17～11.29	1,122.5	集落跡/縄文・古代
田面木遺跡第56地点	試掘調査	個人住宅建築	R1.11.18～20	13.5	集落跡/平安
市子林遺跡②	試掘調査	個人住宅建築	R1.11.20	7	集落跡/縄文・古墳・奈良・平安・中世・近世
八戸城跡①	試掘調査	駐車場拡張工事	R1.11.25～27	23.25	城跡/縄文・弥生・古墳・近世・近代
八戸城跡②	試掘調査	個人住宅建築	R1.11.26	21	城跡/縄文・弥生・古墳・近世・近代
雷遺跡	試掘調査	個人住宅建築	R1.12.6	19.5	散布地/縄文・平安
鹿島沢古墳	試掘調査	個人住宅建築	R2.1.22	15	古墳/縄文・奈良・平安
八戸城跡第44地点	試掘調査	個人住宅建築	R2.3.11	27	城跡/近世
中道遺跡	試掘調査	太陽光発電設備設置	R2.3.18・19	110	散布地/縄文
田面木遺跡③	試掘調査	個人住宅建築	R2.3.24・25	15	集落跡/古代
小沢遺跡	試掘調査	個人住宅建築	R2.3.25	24	散布地/縄文
雷遺跡第8・9地点	試掘・本調査	個人住宅建築	H31.4.15～17 R1.6.3～14 R1.9.2～10	150 235 44	散布地/平安・近世
田面木遺跡第51地点	試掘・本調査	個人住宅建築	R1.6.10・11 R1.7.16～8.9	11 15.4	集落跡/奈良・平安
田面木遺跡第52地点	試掘・本調査	個人住宅建築	R1.6.10・11 R1.7.16～8.9	18 64.2	集落跡/平安
田面木遺跡第53地点	試掘・本調査	個人住宅建築	R1.6.10・11 R1.7.16～8.9	18 55	集落跡/平安・近世
田面木遺跡第55地点	試掘・本調査	個人住宅建築	R1.7.9・10 R1.7.11	20 29.9	集落跡/平安
雷遺跡第10地点	試掘・本調査	個人住宅及び車庫建築	R1.9.25 R1.10.10～18	21.25 35	散布地/平安
新井田古館遺跡第32地点	試掘・本調査	個人住宅建築	R1.10.24～29 R1.11.20～26	32 102	集落跡/古代
中野(2)遺跡第1地点	本調査	個人住宅建築	H31.4.3～11	54	散布地/古代・中世・近世
館平遺跡第31地点	本調査	個人住宅建築	H31.4.3～16	94.5	集落跡・城跡/平安
田面木遺跡第50地点	本調査	長芋作付け	R1.5.15～6.28	2,000	集落跡/縄文・弥生・奈良・平安・近世
松ヶ崎遺跡第11地点	本調査	長芋作付け	R1.5.7～6.28	2,250	集落跡・貝塚/縄文・奈良・平安
石橋遺跡第12地点	本調査	長芋作付け	R1.7.29～10.17	2,230	集落跡/古代・近世
館平遺跡第30地点(新田城跡)	確認調査	内容確認調査	R1.7.1～22	400	集落跡・城跡/縄文・古代・中世・近世
一王寺遺跡	確認調査	史跡内容確認調査	R1.7.4～9.10	400	集落跡/縄文
八戸城跡第42地点	本調査	南部会館板扉移設工事	H31.4.17～25	24	城跡/近世
八戸城跡第43地点	本調査	県道整備工事	R1.9.2～10.15	270	城跡/近世
酒美平遺跡第19地点	本調査	社会福祉施設建設	R1.10.7～11.15	238	集落跡/縄文・飛鳥・奈良
熊野堂遺跡第7地点	本調査	地中送電線埋設工事	R1.10.21～11.14	180	集落跡/古代



《調査事務局》

(平成31・令和元年度)
八戸市教育委員会

教育長 伊藤 博章
教育部長 石亀 純悦
教育次長兼教育総務課長 橋本 淳一

是川縄文館長 工藤 朗
副館長 田茂 隆一
(8/1～図書館長)

《埋蔵文化財グループ》

埋蔵文化財GL 小保内 裕之
(8/1～副館長兼埋蔵文化財GL)
主幹兼社会教育課主幹 杉山 陽亮
主査兼学芸員 横山 寛剛
主査兼学芸員 田中 美穂
主事兼学芸員 苧坪 祐樹
主事兼学芸員 上ノ山 拓己
主事兼学芸員 宇庭 瑞穂
発掘専門員 宇部 則保
発掘専門員 小笠原 善範
臨時職員 遠藤 幸子

《縄文の里整備推進グループ》

縄文の里整備推進GL 小久保 拓也
副参事 大野 亨
主査 金澤 匡志
主査 番沢 裕子
主査 熊野 聡美
主査兼学芸員 市川 健夫
主事兼学芸員 佐藤 ちひろ
主事兼学芸員 山田 貴博
非常勤主事 菅澤 早希子
非常勤主事 下沢 雅代
臨時職員 泉 拓也
臨時職員 栗谷川 恵美

《平成31・令和元年度刊行》

八戸市埋蔵文化財調査報告書
第170集 八戸城跡第40地点
第171集 八戸城跡第42地点
第172集 酒美平遺跡第19地点
第173集 熊野堂遺跡第7地点
第174集 八戸市内遺跡40
第175集 一王寺遺跡概報

掘りday はちのへ 第23号

発行年月日 令和2年6月16日
編集・発行 八戸市埋蔵文化財センター是川縄文館
〒031-0023
青森県八戸市大字是川字横山1
TEL 0178(38)9511
E-mail jomon@city.hachinohe.aomori.jp
https://www.korekawa-jomon.jp
(是川縄文館ホームページ)

印刷 大東印刷株式会社
印刷部数: 1,000部 印刷経費: 一部あたり 98.45円

